

Vascular Street

速報

福岡大学 - 啓明大学交流 10 周年記念国際シンポジウム

To Commemorate the 10th Anniversary of Medical Students Exchange Program for Bed-Side Learning



はじめに

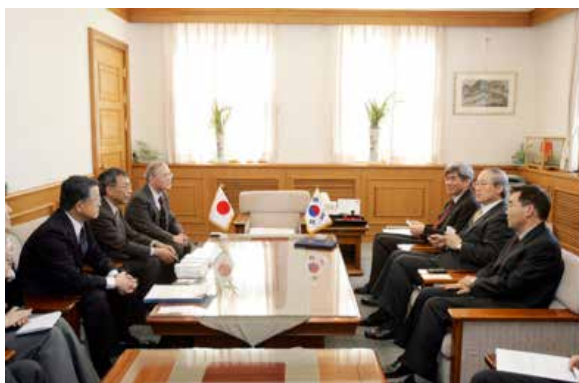
文部科学省の大学教育の在り方のなかに、「大学は国を越えた学生や教員・研究者の移動・交流や、国際的通用性を前提とする学位の授与など、その教育と研究はグローバルな活動を伴う」となっている。国の内外から広く優秀な学生、教員・研究者を集わせ、大学の教育・研究機能を高めることは、高度な研究と全人格的な教育を行う大学の内在的要求に応えることである。多様な文化や背景を持つ者がともに学ぶことは、新たな知的発見を通じ、知識技能のみならず、人格的にも大きな成長が期待できる。我が国においてこそ、大学教育のグローバル化に積極的に取り組み、大学教育の構造転換を果たすことが求められるようである。つまり急速に進む社会や産業界のグローバル化の中で、大学の教育研究機能が我が国の国際競争力を高めることに貢献することが求められているわけである。

グローバル化が進む中で海外との交流の機会は増

大し、日本の社会も大きな転換期を迎えている。将来、社会へ出て行く学生には、柔軟で多方面から考察できる力を持ち、国際的視野に立つてものごとの正否を判断できる人物になりうるか否か。このような時代に相応しい人材育成のために本学では海外の協定校との間でさまざまな国際化プログラムを学生に提供している。グローバル(Global)に活躍するアクティブ(Active)な精神を持った人材育成を目的とする教育プログラム(Program)としてGAPが福岡大学にある。

「グローバル人材」とは、高いコミュニケーション能力に加え、未知の世界や異なる国籍・文化を持つ人の中に、堂々と飛び込んでいくアクティブな精神力と能力を持った人だろう。そのような人材を育成することを目的とした、福岡大学の新しい教育プログラムがGAPのコンセプトだ。ある大学においては、学生全員が、在学中に短期・長期の外国留学を体験することを義務化している。

さて、このGAPのプログラムの一環ではないが、この10年間、福岡大学医学部と韓国の啓明大学医学部で行われている医学部学生の臨床実習交換留学制度を紹介したい。韓国の大邱市にある啓明大学医学部と福岡大学医学部6年生同士の2週間のベッドサイド実習の交換である。啓明大学は1954年の創立、韓国の私学ではトップクラスの大学である。10年の歴史が作られたことから、今回、福岡大学－啓明大学交流10周年記念国際シンポジウムを大邱および福岡で開催した。



啓明大学学長室での学長との調印（2006年12月18日）



啓明大学医学部主催、交流協定締結祝賀会（2006年12月18日）

プログラムの説明

福岡大学医学部の学生8名：5月17日～30日、啓明大学病院にて実習
 啓明大学医学部の学生10名：6月11日～23日、福岡大学病院にて実習
 （啓明大学病院は総合病院であり、特に医学教育に力を入れている大学でもある。）



啓明大学学生の福岡大学病院長への表敬訪問



平成27年度の福岡大学学生

10周年記念国際シンポジウム

啓明大学にて…



啓明大学は韓国の中南部に位置する大邱にある私立の総合大学で19の学部を有する。設立は1954年である。医系に関しては、医科大学、薬学大学、看護大学がある。新しい病院・医学部が現在建設中であるが、あと数年後に完成する。まず、釜山空港に到着、9名の福岡大学医学部教授陣とお迎えされた啓明大学教授との記念写真(図1)、啓明大学医学部での講演会(図2)、200名以上の学生、教員の参加があった。韓国語、日本語の同時通訳が入り、教育に関するテーマで、福岡大学から医学部長、医学教育推進講座の安元佐和教授(図3)、八尋英二講師(図4)が両国の医学教育の違いなどを討論した。啓明大学医学部の図書館はすばらしい(図5)。大きなスペース、地震が少ないのか、この蔵書数と建物のデザインにはびっくりする。大邱の市内の写真(図6)であるが、ヒトが多く、右は最後のパーティーの写真(図7)である。両国の学生と教官が膝を並べて食事する。



図 1



図 2



図 3



図 4



図 5



図 6



図 7

福岡大学にて…



福岡大学病院メディカルホールにて約200名を超える学生・教官の参加があり、日韓国際シンポジウムが開催された(図8)。この交換留学制度に尽力された坂田教授、廣瀬教授に対して啓明大学キム医学部長より感謝の盾が贈られた(図9)。守山教授には先月、啓明大学を訪問した際に同じ盾が贈られた。シンポジウムのテーマは、「Medical Science for Life」として、生活習慣病を取り上げた。日本から、筑紫病院浦田秀則教授が高血圧の疫学と運動療法(図10)、呼吸器内科の渡辺憲太郎教授が禁煙について講演し(図11)、多くのディスカッションがあった。日本語、韓国語の同時通訳を配置したので、お金はかかったが深い楽しい討論ができたことに喜んでいる。

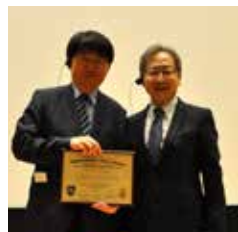


図 8



図 9



図 10



図 11

Prof. Saku's Commentary

住む場所が変われば価値観も変わるが、留学生活を通して、自分の内面が変わってくる。誰も救ってくれないという経験をする、自然と思ったことを言おうとする姿勢が身に付いてくるようだ。学業の面では、積極的に質問できるようになり、様々な提案ができるようになる。又、国際間の戦争が無くなるはずである。これが一番の目的かもしれない。外に出て交わる、これが医学を学ぶ上に大変必要なことである。